

令和7年度 学校評価表

【評価の基準】 A:達成できている B:概ね達成できている C:あまり達成できていない D:全く達成できていない

学校教育目標		総合評価					
豊かな人間性と高い教養を持ち、他者と協働し、主体的に将来を切り拓く力と、地域・社会を牽引する資質を持った人物を育成する。		国際的な教育プログラムを研究する「未来の学校」構築事業が昨年度で終了したが、5年間かけ積み上げてきた目指すべき学習者像に基づく単元計画やルーブリック評価を生かし、知識を教え込むだけでなく、生徒の興味・関心を引き出し、思考力・表現力等を育成するための授業がデザインできた。					
重点目標(中・長期的)		今年度で3年目となる2学年による週2時間の探究学習では、多くの方のご支援を賜り、地域の課題など自身の興味・関心に基づいて設定したテーマで主体的に学習に取り組むことができた。また、学外ボランティアや海外への短期留学等へ積極的に参加する生徒が多く見られ、主体的に行動できる生徒が増えていると感じる。					
今年度の重点目標		学校行事は、例年通り実施することができた。なかでも文化祭や春秋クラスマッチ、コーラスコンクールでは生徒たちの協働する姿が多く見られた。同窓会、PTA、地域の方々にご協力とご支援を賜り、充実した学校生活を送れていることに感謝したい。各係が行った自己評価は下表の通りである。概ね年度当初の目標に到達していると考えられる。					
		成果と課題	A	B	C	D	改善策・向上策
		「未来の学校」事業は終了したが、学校設定科目では今年度から外部とも繋がり、学びを深めることができた。また、Fuetu global campなどの事業も継続して行うことができた。		○			学校設定科目については、受講生徒の意見も取り入れてブラッシュアップを図っていきたい。学外へ向けた発信も積極的に行っていきたい。
		2年次で実施している探究学習や、授業内でのパフォーマンステストによって、知識偏重とならないバランスのとれた力を育成すべく取り組んだ。		○			観点別評価の理解とルーブリックの活用を進め、必要に応じて校内研修や外部講師による講義、講演を実施していきたい。
		配信システムを用いて学校の様子を伝えたり、支援窓口の案内を行ったりした。今年度、初めて職員・1学年の生徒・保護者を対象にCAPプログラム研修を行った。		○			アンケート結果や学校への声を職員間で迅速に共有できる体制を整え、学習面、生活面ともに個々のニーズにすばやく対応できるようにするとともに面談など対面での機会も大切に、きめ細やかな支援を心掛けたい。

領域	対象	評価項目	評価の観点	成果と課題	A	B	C	D	改善策・向上策	
教育課程	生徒・保護者及び地域の期待・要望を勘案し、風越高校の特色を生かせる教育課程の検討を進め、提示していく。	次年度の講座・科目選択において、各学年と協力して、生徒の進路や興味・関心に応じたコース等の提示ができたか。	各学年と連携し、生徒の進路や興味・関心に応じた選択科目編成、提示ができた。ただ、希望通りの科目選択にならない生徒もいた。		○				各学年と協力して計画的に進めていきたい。来年度以降も講座編成の困難は予想されるが、生徒の進路希望が実現できるような講座編成を考えたい。	
		新教育課程表について、さらに改善すべき点があれば改善し、見直しをすることができたか。	3年実施してみたいの意見を集約した。教育課程表については、3年選択科目の見直しを検討する方向性を決めた。		○				今年度から来年度にかけて、3年次の選択科目の編成については改善の必要性が生じている。教育課程表の見直しも含めて継続して、検討していきたい。	
	学力の向上を図るために学習習慣の確立に努める。また、総合的な探究の時間(Fの学び)の在り方について検討・実践していく。	家庭学習の充実を図ることができたか。	朝学習により、朝SHRで学習するという習慣はつけられたと思われる。しかし、家庭学習時間は入学時に比べると減っている。	学習習慣の必要性を学年集会、HR、授業等で各教員が伝えているがなかなか伝わらない。伝え方の工夫をしたり年齢の近い卒業生に講演会をしてもらう等のしかけづくりをしていきたい。		○				
		生徒の進路・ニーズに合った学習指導はできたか。	年内入試が増加する中、面接練習・小論文指導を充実することができたと感じる。また探究活動では多くの教員が携わり、各グループに合わせた指導ができた。	例年より年内入試の合格を多くもらい、年内入試の指導は良かったと思われる。この結果が偶発的ではないようにするためのシステムを構築していきたい。	○					
		より良い総合的な探究の時間について検討・実践することができたか。	2年生を中心に、年間を通じた計画的な探究を実施できた。また、その中で主体的に探究を進めていく生徒の姿も多くみられ、成果が得られた。	2~3グループに教員1人がつき指導してきたが、どうしても属人的になっている。指導の質を高められるような研修を考えていきたい。		○				
	進路希望に合わせた情報の提供と指導を行う。	生徒の意識の高揚を図りながら進路希望に沿った指導ができたか。	様々な機会を通して生徒に進路情報を提供し、意識の高揚を図ることができた。進路室を来訪する生徒には係職員が丁寧に個別指導するなど、多様な進路選択に対応するため一人一人きめ細かい進路指導ができた。	受験報告書の活用、受験情報誌のクラス配布、志望に沿った小論文指導や面接指導を通じて進路意識の高揚を図る。		○				
		職員間の進路情報、指導法の共有を図る。	模試情報の迅速な共有とオンラインでの情報活用技術向上の取り組みができたか。	模試の結果を迅速に職員間で閲覧し情報の共有に努めた。3学年担任に向けて判定システムを積極的に利用するよう促し、生徒への進路指導や懇談会資料として役立てた。		○				BENESSE HIGHSCHOOL ONLINE および KEI-NAVIの利用を促進し、模試や共通テストの結果などの進路情報の有効活用を図る予定である。
		キャリア教育の課題を具現化した進路指導を行う。	「Fの学び」等を通して、進路意識を高揚させることができたか。	大学模擬講義(9月)、職業学習(12月)などを実施した。アンケートを見る限り、進路意識の向上に一定の効果があつたと考えられる。	大学等卒業後のUターン就職の参考にもなるよう、飯田市地域産業振興課と協力して多様な職業学習を実践し、キャリア教育の充実を図りたい。		○			
	社会規範・交通規則・校則を守る意識を高め、いじめのない自律的な学校生活を送れるよう支援・指導を行う。	いじめ案件などにすぐに対応できたか。	年2回生活アンケートを実施し、いじめの早期発見につとめることができた。年度初めには全職員で事案発生時の対応について確認している。	アンケートにてでない事案の把握のため相談しやすい環境をつくる。引き続き、職員間の連携を深め、組織として対応していく。		○				
		規範意識が高められたか。特にSNSの危険性について理解が深まったか。	SNSの危険性については4月の安全教室や学年集会、長期休業前にも職員から呼びかけ、さらに教室掲示でも注意喚起するなど、予防に努めた。	知識としては理解していても、一時的な感情に流され、書き込みや相手の気持ちを考えずに行動する生徒もいる。アンガーマネジメント等、感情のコントロール方法も支援していきたい。		○				
地域・家庭との連携を図り、安心・安全な環境を維持する。		地域・家庭との信頼関係を深めることができたか。	不審者情報や交通安全等の注意喚起は配信アプリを活用した。家庭ともきちんと情報共有し、対応することができた。	地域・家庭との連携は引き続き丁寧な対応を心がける。		○				

領域	対象	評価項目	評価の観点	成果と課題	A	B	C	D	改善策・向上策	
教育	教育相談	教育相談態勢の充実を図る。	職員間で共通認識を持ち、適切な支援ができたか。	毎週の係会を通して、学年会・担任会での情報共有を図ることができた。各種調査やアンケートを通して、職員間での共通認識を醸成することができてきている。		○			今後も職員間の情報交換を密にし、心配な生徒へは適切・迅速に対応する。また、現状にあった職員研修や情報発信を行う。	
			関係機関の活用、連携ができたか。	SCやSSW、役所、病院等と連携することができた。今後も職員間の共通認識を高めつつ、各種機関との連携を増やしていきたい。		○			今後も生徒、保護者への周知を更にすすめて、支援の充実を図りたい。生徒・保護者の状況は多岐にわたるため、専門家の助言を頂きつつ対応していきたい。	
	生徒会	自治活動としての支援を図る。	委員会、部活動、風越祭などが充実して行えたか。	風越祭や部活動において、顧問の指導のもと、計画から実行に至るまで生徒自らが達成感を得るような活動に近づけた。委員会活動は、学校生活がより充実するような観点で新たな活動を取り入れておこなうように促すことができた。		○			自治活動において、微小であっても生徒たちの目標や成果が成長に繋がるように支援をしていきたい。また、いかに最小の支援で生徒の成長を促せるかを課題として関わっていくことも試みていきたい。	
			協働して物事に臨む姿勢を促す。	参集型の生徒総会や集会などの運営や参加により協働して行事に臨めたか。	参集型の生徒総会などの運営を役員で協働しおこなうことができおり、定着していると感じる。一般会員への働きかけも少しずつではあるがおこなうことができた。		○			HRで役員や代議員会から対面での発信・受信も大切な機会であることを促していきたい。代議員会の機能を生かし一般生徒の意見が生かされている実感を持ってもらい関心を高めていきたい。
			地域を意識した活動により社会性を育む。	風越祭の企画やボランティア活動等において地域を意識した活動ができたか。	一般公開で多くの来場者を迎えた風越祭は、地域の方々を意識して楽しんでいたような企画も見られた。生徒会から全校生徒へ発信できるボランティア活動については課題が残る。		○			風越祭の一般公開は、さまざまな年代や地域の方々、保護者等にも拓かれたものとし、社会性を育む活動になるよう支援したい。生徒会が関わるボランティアについては研究していきたい。
	保健	自己の健康課題を把握し、健康の保持増進・感染症対策に主体的に取り組む力を育てる。	健康の保持増進に努める取り組みをサポートできたか。	感染症や熱中症、思春期に多い病気に関するポスターを廊下などに掲示し、注意喚起を行った。これにより、関心を高め、予防意識を促進することができた。		○			生徒が自主的に自己管理や健康増進について行動に移すことのできる呼びかけをさらに充実させる。	
			夏場の熱中症の予防等、季節に合わせた体調管理ができるよう、啓発活動を行うことができたか。	授業中のこまめな水分補給の呼びかけ、WBGT予報値を掲示するなど熱中症対策について呼びかけることができた。また、エアコンの使用も熱中症対策につながった。		○			熱中症対策に関して、エアコン設置がされていない研究室もあり、改善が必要である。11月にはグラウンドシェルターを導入したため、来年度はグラウンドに日影を確保した状態で授業を実施できる。	
			年間を通して感染症の予防に努め、校内での感染症の蔓延を最小限にとどめる取り組みができたか。	感染症の拡大防止のため情報提供・注意喚起など感染症対策を行うことで、生徒・職員への意識づけを行うことができた。		○			学校全体として感染症の蔓延を防ぐ取り組みを考えていきたい。特に、テスト期間にインフルエンザ等で学級閉鎖にならぬよう、呼びかけ・対策を強化していきたい。	
			図書館の利用促進をいっそう図るとともに、探究学習や進路実現のための資料の拡充を目指す。	図書館の情報発信・環境整備、資料の拡充とともに、資料閲覧、調査、貸出が円滑に行えたか。	探究学習や進路実現のための資料提供を円滑に行い、そのための資料拡充ができた。また、Google Classroomを活用して情報発信に力を入れることができた。		○			図書館の情報が全生徒に届くように発信し、さらに利用を促していく。また、探究学習に役立つリンク集の整備を進め、正確性の高いインターネット情報にアクセスしやすくする。
	視聴覚	タブレット端末等を利用した学びの継続や伝統文化に親しむ機会を保障する。	生徒への学びの提供が行えるよう環境を整えていくことができたか。	体育館のスクリーンを新調し、集会等で活用できるようになった。引き続きすべての教室に生徒のタブレットも接続可能な受信機の配備を進め、生徒の学習でデジタル端末の利用ができる環境を整えた。		○			袖教室への設備の導入および、ネットワークが集中した際に重くなる現象の改善ができる範囲で行う。タブレットでやるべきか紙でやるべきかなど適している要素の精選をしていく。教員側としても有効的な利用法を引き続き模索していきたい。	
生徒や学校に携わる者が、人権学習を通じて人権の性質である固有性・不可侵性・普遍性を再度確認し、相互に享有することを目的とする。特に憲法第13条の「個人の尊重」に重点を置き人はいろいろ違っていて当たり前という当然の事実を認識したい。			平和と人権学習や修学旅行体験を通じて、戦争の悲惨さと平和の尊さ、差別や不当な人権侵害の事例について学び、人権感覚を養い、磨くことができたか。	学校全体での取り組みとして映画鑑賞を行ったが、多くの生徒が他人事ではなく自分の事として考えながら鑑賞してくれたものと思われる。感想文の内容も今後の自己の課題としてどう取り組んでいくべきか書かれているものが多く、積極的に優れたものが多かった。適切な教材を選択できたように考えている。感想文は、入力ではなく生徒の手書きを今後も続けていきたい。		○			全校での平和と人権学習の活動としては、映画鑑賞が続いている。しかるべき講師をお招きして講演会も考えているが人選・費用の面で問題が大きいものと認識している。本校生徒は、感想文にみられるよう優れた資質を持っており、さらに意識を高めるべき取り組みを考えていきたい。	
人権平和	生徒や学校に携わる者が、人権学習を通じて人権の性質である固有性・不可侵性・普遍性を再度確認し、相互に享有することを目的とする。特に憲法第13条の「個人の尊重」に重点を置き人はいろいろ違っていて当たり前という当然の事実を認識したい。	人権を持つ人間としての尊厳や命の尊さについて学び、人権意識の向上を図ることができたか。	修学旅行での人権学習の取り組みは、被爆地広島での被爆者の講演、震災地神戸での本校職員による講話など機会を生かした活動ができた。教科の授業でも地歴公民科を中心に人権学習を取り入れている。今後もあらゆる機会を捉えていきたい。		○			特別な行事以外の日々の生活の中での人権学習をいかに取り組んでいくかが課題であると考えている。小さな取り組みでもよいので、それを積み重ねることができるにはどうしたらいいか、具体的な内容を検討していきたい。		
		保護者や地域との連携・交流に努めるとともに、積極的に情報を発信し、より一層開かれた学校づくりを進める。	配信メールや広報誌、Webページで学校情報を積極的に発信できたか。	Webページや配信システムで生徒の様子や学校からの連絡を発信できた。広報誌「Fuetsu News」は地域の方々へ閲覧版が届けることができた。		○			来年度も今年度同様に学校情報を積極的に発信していきたい。	
学校運営	保護者や地域との連携・交流に努めるとともに、積極的に情報を発信し、より一層開かれた学校づくりを進める。	PTA活動や学校評議員会の意見を学校の教育活動に生かすことができたか。	PTA活動では、文化祭で出店する等、保護者を中心に職員と協力して活動することで関係をより深めることができた。学校評議員会は予定通り開催し、生徒も交えた議論を行うことができ貴重な時間となった。		○			PTA活動では事業の精選・見直しを進めて、より効果的な活動となるよう検討を重ねている。今後も様々なかたちで学校評議員・保護者・地域の方から意見を伺い学校運営に生かしていきたい。		